

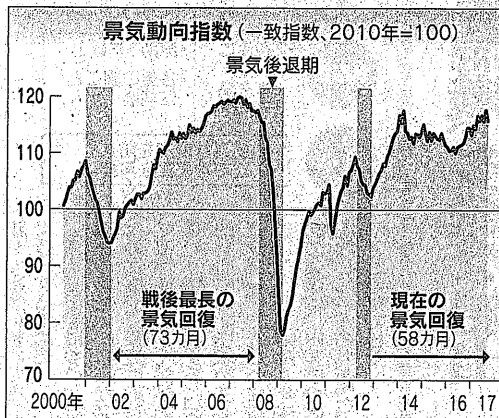
# いざなぎ超え 不安交じり

2012年12月に始まった景気回復局面が高度成長期の「いざなぎ景気」を超えて戦後一番目の長さとなったことが8日、確定した。内閣府が同日発表した9月の景気動向指数(CI、2010年=100)の基調判断を11カ月連続で「据え置き」、景気回復が9月で58カ月間に達した。海外需要の追い風などで歴史的な安定回復軌道を進む日本経済だが、将来の成長期待は低く、不安も入り交じり。

## 景気回復 戦後2位58カ月

景気回復の期間など、景気動向指数の判断から見ると、後日開く景気動向指 体的なデータとしても確 数研究会で専門家の意 認された。

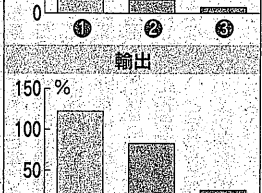
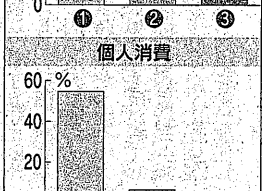
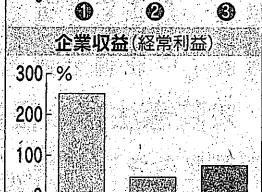
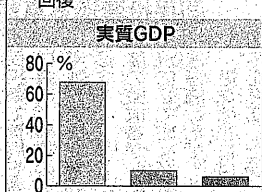
見を聞いて内閣府が判断 いた。いざなぎ景気は1966 5年11月から70年7月ま 再生相は現在の景気は 57カ月間続いた。今の 「いざなぎ景気を超えた 景気回復が2019年1 月まで続けば、02年2月 を示しており、今回の景 からは73カ月間続いた戦後



## 稼ぎ、輸出から投資へ 国内に還流しづらく

### 過去の景気回復期との比較

(谷から山への変化率、四半期ベース)	谷	山
①いざなぎ景気	1965/10	70/7
②戦後最長の景気回復	2002/1	08/2
③近頃の景気回復	2012/11	(17/9)



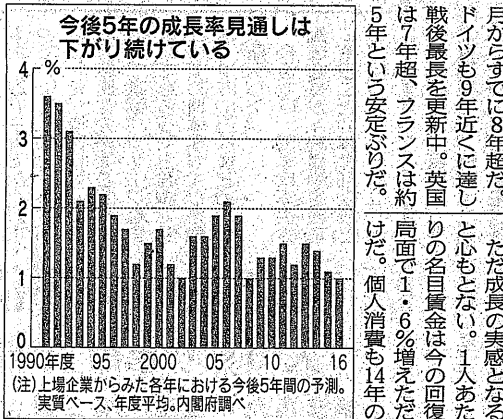
最長の景気回復を抜く。 BNPパリバ証券の河野龍太郎チーフエコノミストは「どの国でも好景気が雇用者所得の増加や消費の活性化につながっていない。その分、景気が過熱せず、結果として緩やかな拡大が続いている」と指摘する。

米景気回復は09年7月からすでに8年超だ。ドイツも9年近くに達し、戦後最長を更新中。英国は7年超、フランスは約5年という安定ぶりだ。

日銀の異次元緩和による円安も景気を下支えし、製造業では生産を国内に戻す動きも出てきている。17年の製造業の雇用者数は7年ぶりに1千万人の大台を回復する見通し。景気回復に人口減少が加わり、企業の人手不足感が強まっているのも今の景気回復の特徴だ。

ただ成長の実感となる心の目算金は今の回復の各目算金は今の回復局面で1.6%増えただけだ。個人消費も14年の

状況が続かない。今の景気回復が19年1月まで続けば、戦後最長の記録を更新する。民間エコノミストに回復の持続力を聞いたところ「19年半ばまでは回復が続く」との見方が多い。最大のリスクは米国の成長息切れた。農林中金総合研究所の南志志主席研究員は「トランプ政権の大幅減税が米景気を過熱させ、米連邦準備理事会(FRB)が金融引き締めをペースを速めることが、景気後退につながる」とみる。



輸出の代わりに伸びているのが、海外企業の買収や外債投資から得られる配当金や利子だ。財務調査によると、上場企業が17年1月時点で予測した今後5年間の日本の実質経済成長率は年1.0%。景気回復初期の14年1月の1.5%より低下し、過去最低に並んだ。日本経済の実力を示す潜在成長率が1%程度

ただ、こうしたお金がすべて国内に還流するわけではない。新たなIT(情報技術)サービスの普及などデジタル経済化が急速に進めば、設備投資による資本蓄積の必要性が薄まり潜在成長率を押し上げる力も弱まる。硬直的な労働市場の見直しなど構造改革で一人ひとりの稼働力を高めたひびきも予定されておらず、高収益でも賃金が増えないという